

巻頭言

神戸看護学会に期待すること Expectations for the Kobe Academy of Nursing Science

山森 みどり
Midori Yamamori

神戸看護学会の設立おめでとうございます。設立までには多くの方々のご理解、ご協力、看護に対する熱い思いがあったのことでと思います。改めて関係者の皆様に感謝の意を表します。

2016年4月に設立された神戸看護学会は、「看護学の発展と会員相互の学術的研鑽をはかり、地域の人々の健康と福祉に貢献すること」を目的にしたもので、その勢いとともに関わりを感じています。

今、社会は変革期を迎えています。超高齢社会を目前に、医療行政による地域医療構想や地域包括ケアシステムの構築などが進められ、ますます病院の役割分担を明確にするなど、医療・看護・保健・福祉の強固な連携が求められます。中央市民病院においては、市民の生命と健康を守るという使命の元、神戸医療圏域における高度急性期病院としての機能を担い、24時間365日体制で救急医療の提供といった役割を果たしています。

そこで、神戸看護学会に期待することは以下の4つと考えます。

まず、臨床現場では診療報酬の改定により、在院日数の短縮や重症度、医療・看護必要度の見直しが行われました。急性期医療や高度医療を必要とする患者のニーズに応えるには、より実践的な医療・看護を展開し、限られた資源の中で効率的に質の高い看護を提供することが必要不可欠となっています。超急性期から、急性期、慢性期、在宅へ継続的な医療・看護が求められ、病院の看護師などは、これまで以上に多くの施設やケアマネージャー、訪問看護師、薬剤師、理学療法士、地域住民などと連携を密にしなければなりません。そのため病院にとどまらず、ますます専門職による役割分担、多職種協働、チーム医療による患者さんへの支援が重要になります。私たち看護師は、その役割を認識し、安全で質の高い看護実践を保証するとともに、より良い看護に繋がれるようにすることがさらに求められます。それゆえ、「顔の見えるシームレスな連携」の充実を図りながら信頼関係や協力体制を構築できるよう学会が率先して調整していただきたいと考えます。

次に、医療体制の変化は看護教育にも大きな課題となっており、最前の医療、看護を行うために、病院と大学、臨床と教育の緻密な連携が求められています。看護師の確保・定着、働きやすい職場環境の改善、新人教育から中堅教育の在り方、大学や大学院教育、研究、病院間の人事交流、認定看護師や専門看護師の活用など、社会から信頼される質の高い看護師の育成に向けて各施設が動いています。実際、臨床では継続教育をそれぞれの施設にゆだねられていますが、日本看護協会は全国に共通できるクリニカルラダーを推奨し、切れ目のない看護提供システムの実現を考えています。その標準化されたクリニカルラダーをうまく活用するには、学会が最新の看護情報や看護活動、社会に向けた

神戸市立医療センター中央市民病院 院長補佐兼看護部長

Vice director of the hospital and director of nursing Kobe City Medical Center General Hospital

情報発信や情報共有ができる場となります。さらに、看護の質の担保として、ケアの受け手すべての方に、安全で安心な看護が提供できるように学会が中心となって、臨床とともに継続教育を企画し実践する場となることを期待します。

第3に、神戸市は平成7年の阪神・淡路大震災から21年目を迎えました。誰もが経験したことのない最大級の地震で、一瞬にして生活が失われた瞬間でした。当時の地震の生々しい傷跡は、ひとり一人の防災・危機管理意識の大切さを教えてくれました。この経験が契機となって、「災害看護」領域の課題に積極的に取り組まれるようになりました。今、世界のあちこちで健康被害や生命の危機を脅かす状況があります。特に災害の多い日本は、被災地での看護活動の必要性が高まるのではないのでしょうか。実際、神戸の風景は戻ったと言えますが、当時の被災者の方々の心の傷は止まったままかもしれません。地域社会、医療施設、大学、医師、看護師などそれぞれの専門職や地域の人々が一体となり、神戸市の生活を守ることができるしくみが必要ではないかと考えます。そのため、学会が神戸ひいては兵庫県下での災害拠点の要となり、各医療機関の調整を行い、組織的な取り組みを期待します。

最後になりましたが、この看護学会の特徴は、1つの領域にとどまらず、地域の人々の健康と福祉への貢献を視野に入れた活動や会員相互の学術的研鑽をはかることで看護学の発展に寄与することが盛り込まれています。

研究といえば、まだまだ臨床家にとって近寄りがたいものであるのは事実です。しかし、本来、学会の目的は研究を発表する場だけでなく、研究者や臨床家が集まって研究結果を臨床に活かして看護の質向上に寄与し、そして研究から生まれた根拠のある実践を市民へ貢献することが重要と考えます。今、科学技術の進歩に伴い、新たな医療技術や治療における看護技術を開発し、その評価を研究する必要が問われています。そのためには、臨床家にとって研究が遠い存在でなく、研究者と看護研究を一緒に行える風土を高めることが必要ではないのでしょうか。神戸地域には多くの活躍されている各専門領域の看護師がいます。このような看護師が各職場での経験的な看護をするだけでなく、学会活動に参加し幅広い視野を習得してもらおう。そして、学会はそれらの多くの看護師を有効に活用していただきたい。そのためには、この学会が先導して取り組めるようなネットワーク体制を構築することを期待します。

神戸看護学会は新たな一步を踏み出しました。今後「実践と教育、研究、地域連携などの架け橋」となっ
ていただき、個々の会員が活用したい学会となるよう期待します。